



されどバスケットボール

会員 本多 諭 (61期)



私の趣味

私は、中学校時代からバスケットボール部に所属し、以来23年間バスケットボール一筋、まさにバスケットボールが私の趣味である。

バスケットボール以外大した趣味はないので、あまり趣味人とは呼べないが、今でも地元の仲間と月に2～3回ほど楽しくバスケットボールをしている。

バスケットボールの不思議さ

バスケットボールは、一見華やかであるが、その練習は地味なものも多くて、ボールを使わない練習すらあり、ただひたすら走るだけでつまらない時もある。

また、バスケットボールには怪我がつきもので、私も去年は左手の小指を骨折し、一昨年は、左足を捻挫している。左手の薬指は、中学校時代から突き指の上に突き指を重ねたため、今では見た目にもはっきり曲がってしまっている。

そんなことまでして、と思うがどんなに仕事が忙しくても必ずバスケットボールの予定だけは開けようと粉骨砕身(?)努力している。

忙しくて、バスケットボールの時間が取れないはずであるのに、朝から仕事をして、午前中にある程度仕事の目処がつくと、多少バスケットボールをしても何とかなんと勝手に考えて、2時間だけバスケットボールをして、また仕事に取り掛かるなんてこともある。

体育館の抽選に漏れたりして、一カ月以上もバスケットボールができなくなると、何となく落ち着かず、かえって仕事の進みが遅くなったりもする。

趣味というのは、不思議なものである。

バスケットボールの魅力

バスケットボールの魅力と言うと、きわめて単純だが、やっぱり試合に勝ったとき、シュートを決めたとき、試合で活躍したときの達成感、爽快感である。

この前の大会で自分が得点を決めて勝利した時の幸福感と充実感は忘れられない。

しかし、それにも勝る魅力がある。

それは、ことバスケットボールには限らないことであるが、普段は絶対に友達になることはないという人とも、バスケットボールを通して友達になることがあるということである。その人が多少気難しくても、シュートを決めたところに、「ナイッシュー」と声をかけると自然と仲良くなる。

このノウハウを生かして様々な職種の人たちと友達になることができ、私も、バスケットボールを通じて、パイロットやデザイナー、舞台俳優、映画監督などバラエティー豊富な仲間ができた。

色々な職種の人と友達になれると、様々な話が聞けて、雑学が豊富となる。この雑学が、依頼者と話をしたりするときに、また、準備書面を作成したりするときに、非常に役立ったりするのである。

これが、今の自分にとってバスケットボールの一番の魅力かもしれない。

最後に

楽しくバスケットボールをして、気の合った仲間でも見つけられたら、これに勝る喜びはない。

30歳を過ぎて、そろそろ飛べなくなってきたので、新しい趣味を見つけていきたいと考えているけれど、まだまだ当分バスケットボールにはお世話になりそうである。